

韓国楊口郡との青少年交流事業 〜未来へつながる若き挑戦〜

韓国楊口郡と智頭町は、平成11年に友好交流協定を結び、互いに訪問と受入を繰り返しています。今年も智頭中学校の生徒12人が7月30日から5日間、韓国楊口郡を訪問し、ホームステイやスポーツを通じて友情を深めました。



『はじめまして、よろしくね!』笑顔と握手でホストファミリーに迎えられ、緊張しながら頑張つて覚えた韓国語であいさつ。ホームステイでは、各家庭に分かれ、韓国の暮らしを体験しました。『言葉が通じるとこんなに不便だと思わなかった』『自分の気持ちが伝わったときは嬉しかった』苦しみながらも、学校で習った英語や身振り手振りで必死に対話を試みる姿がありました。

楊口中学校での歓迎式では、生徒代表の石谷真人くんが韓国語を交えてあいさつし、練習を重ねてきたよさこい踊りを披露。楊口郡の生徒の手を引いて舞台上に招き一緒に踊り、場を盛り上げていました。スポーツ交流ですっかり意気投合した生徒たちは、その日の夜に生徒同士で集まる約束をして、サッカーやカラオケをするなど、積極的に交流を楽しんでいました。



国や文化、価値観の違いを越えて互いを認め合うことは容易ではありませんが、言葉に頼らずとも心を通わせ楽しむ子どもたちの姿は、国際社会において大人が見習うべきことだと感じます。今回の交流で韓国の暮らしを肌で感じ、異文化を理解すると同時に、日本の文化を改めて知るきっかけになりました。

智頭中学生の心には、友達やホストファミリーと過ごした思い出もさることながら、戸惑いながらも自ら挑戦して克服した達成感が、また一つ自身の成長に繋がったことと思います。今

後も、楊口郡との交流をとおして、互いの友情を深めながら、国際的な感覚と広い視野を持つ、智頭町の未来の担い手が育ってくれることを願っています。



青少年交流事業で印象に残ったこと！韓国体験の素直な感想

あまりしゃべれないかなと心配になったけど、気軽に話せました。言葉が違って心が一つになったら、誰でも通じ合えると思いました。



1-1 土居由我



1-2 義仲陸仁

学んだことは、勇気を出すということです。ホストファミリーのみんなが話しかけてくださり、僕も緊張などがなくなりました。

交流を通して感じたことは、心がつながっていれば言葉が通じること・他国でのコミュニケーションが出来たと感じた所です。とても良い体験ができました。



2-1 橋 勇希
クラウドイオ



3-1 石谷真人

いろんな話で盛り上がり、最高のものにできました。言葉の壁を越え、違和感がなくなりました。また、こんな機会があったら参加したいです。

韓国の生徒はフレンドリーで、会話もジェスチャーや英語で通じたので、自分に少し自信がつき、恥ずかしがらずに話せるようになりました。



3-2 懸樋飛向



3-1 国本 颯

初めは恥ずかしくて、“アンニョンハセヨ”がなかなか言えなかったけど、今は言えるようになりました。

交流を通してたくさんの方に文化に触れたと思いました。優しく話しかけてくださってとても嬉しかったです。来年は智頭で楽しみたいと思いました。



2-1 綾木遥花



2-2 小林心春

よさこいの時、韓国の生徒は場を盛り上げてくれて嬉しかったです。空き時間に韓国のゲームをみんなでしました。その時が一番嬉しかったです。

初めは話すことができるか不安だったけど、大歓迎して下さり、緊張や不安もなくなりました。ペアの人とも仲良くなり、私はずっと笑っていたと思います。



3-2 國岡まりな



3-1 畠田真有

最初は不安だったけど、とてもフレンドリーで日本語が上手で話しやすかったです。ゲームも教えてくれて、日本でもしようと思います。

ホームステイでは、韓国語を使って話すことがとても難しかったけど、英語を使って話してくれて、とても話しやすかったです。



3-2 山根百合奈



3-2 中野 藍

韓国の中学生と会ってみると、ほとんど言葉は関係ありませんでした。ずっと前からの友達みたいに最高に嬉しかったです。